

リスクマネジメント

○ リスクの評価

社内外の経営環境の変化からリスクとなりうることを「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「マネジメントコントロール度」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定しています。社内・社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

全社主要リスク

経営への影響度が大きいにもかかわらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、全社横断的なプロジェクトにより、最優先でリスク低減に努めています。

対策状況モニタリング

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロールが高まったとしても経営への影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています。

社外情報モニタリング

その時点では経営への影響度が小さく経営課題とならないリスクにおいても、対策ができていないリスクは感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています。



○ リスクマネジメント体制

当社グループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会[※]で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理しています。特に下記の8つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。



これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当執行役員が定期的に取り締役会へ報告しています。

[※]リスクマネジメント委員会は、当社経営会議の一部メンバーおよび主要本部・主要子会社の代表者より構成しており、当社グループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、委員会を年3回開催しています。
なお、地球環境問題、気候変動リスクについては、サステナビリティ委員会で対応しています